

大阪府・市の経済施策を担う団体。
中小企業やスタートアップ企業を中心に支援。
経営相談から創業支援まで、府・市の施策に連携し
様々な事業を展開している。

支援ネットワーク

◆大阪産業局が持つ様々なネットワーク



登録ユーザー数
367,394人



中小ものづくり企業
8,900社



起業サポートする企業ネットワーク
52社・団体



報道関係者
810人



広報誌B-Platz press
30,000部発行



消費者モニター
4,618人



クリエイティブクラスター
1,815社



在阪金融機関ネットワーク
180人



経営・創業相談専門家
172人

◆支援する対象に合わせて拠点施設を運営



MEBIC

MyDOME OSAKA

TEQS
ソフト産業プラザ

OSAKA INNOVATION HUB

MOBIO

ODP
大阪デザイン振興プラザ



大阪市が開設した テクノロジー・ビジネスの支援拠点

Technology × **Q**uestの造語。技術や テクノロジービジネス
を探究する場所、そういう人が集まる場所。



支援する対象

「技術で課題解決をする」企業・個人

キーワード

IoT、5G、DX、ロボットテクノロジー、AI、
FA、音声・画像認識、VR・AR、自動
化・・・etc.

咲洲・ATCにある テクノロジー・ビジネスの支援拠点

創る

5Gビジネス創出プロジェクト

5G X LAB OSAKAでサービスアイデアが
浮かんだ企業に対して支援メニューを提供

- ・5Gビジネス開発補助金
- ・5Gトライアル導入補助金
- ・咲洲テック・ラボ・プログラム(加速する参照)

アクセラレーション

先端技術をテーマとしたプログラム。

- ・TEQS Generative AI QUEST

育てる

インキュベーション

創業間もない企業を対象に、経営相談からフォローアップ、新規事業の立ち上げを支援。

入居15社 (R5.12月現在)。

- ・インキュベーション支援
- ・先端技術セミナー
- ・プロジェクトサポート
- ・デジタルファブリケーション

検証する

実証実験支援

ATCを使って「商業施設まるごと実証実験プロジェクト」という形でフィールドを提供。

AIDOR Experimentation



加速する

咲洲サテライト万博

地域全体を使った街ごと実証実験フィールドで社会実装へ向けた支援を提供。

- ・咲洲テック・ラボ・プログラム



5Gオープンラボ事業 (入口事業)



5Gを活用する製品・サービスの開発支援のためのオープンラボ。
大阪市・ソフトバンク・iRooBO・大阪産業局の4者が官民連携で運営。

5G時代のサービスのヒントを得てもらい、開発につなげる



展示・体験
ルーム



検証ラボ

プロジェクト 創出・推進

「5G X LAB OSAKA」を中心とした テクノロジービジネス支援体制が整っていることが
入居メリットにつながり、有望な中小・スタートアップが続々と入居。
支援と企業成長の好循環が生まれている。



先端技術活用ビジネスに特化した支援は全国的にも珍しい。

R6年度には東京発のスタートアップが2社、
京都発スタートアップが1社、海外からも1社入居。

TEQS および5G X LAB OSAKAに一定の認知度が生まれている。

センサ・半導体関連技術

遠隔技術

ドローン

IoT・アプリケーション

respawn walk

キュリオシティ

庄晶商事

5G X LAB OSAKAについて

5Gを活用する製品・サービスの開発を支援するためのオープンラボ「5G X LAB OSAKA」
5G環境での**開発・検証**と5G活用事例の**デモ体験**ができ、ビジネスサポートも提供。



- 名 称 : 5 G X LAB OSAKA (5G・クロス・ラボ・オオサカ)
- 運営主体 : 大阪市、ソフトバンク (株)、
(一社) i-RooBO Network Forum、
(公財) 大阪産業局
- 設置場所 : ソフト産業プラザTEQS内
- 利用方法 : 完全予約制 (無料)
- 対 象 : 5G活用製品・サービスの開発をめざす事業者
及び5G活用製品・サービスの導入を検討して
いる事業者

<展示・体験ルーム>

- ・ 5Gを用いた製品・サービスを多数展示。
- ・ 体験を通して 5G時代のサービスの
ヒントを得てもらう。
- ・ 製品開発につなげてもらう。

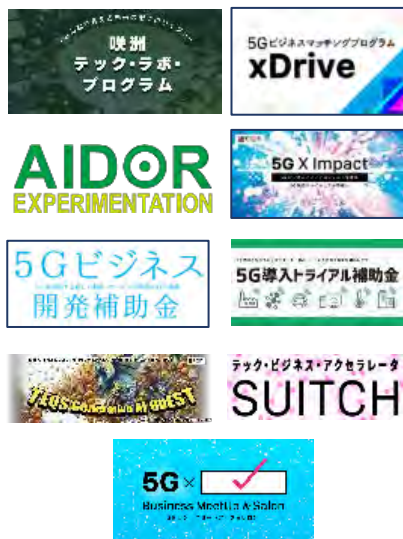
<検証ラボ>

- ・ 試験用5G基地局を設置。
- ・ 「シールドテント」内で 試作端末や
コンテンツの動作検証が可能。



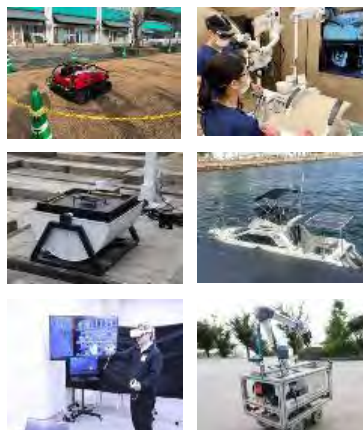
5G X LAB OSAKAを起点に事業・プログラムができて、その事業・プログラムからプロジェクトが生まれ、そのプロジェクトが展示物となり、来場者との共創につながる。こうした5G X LAB OSAKAを起点とした好循環ができつつある。

事業・プログラム



プロジェクト

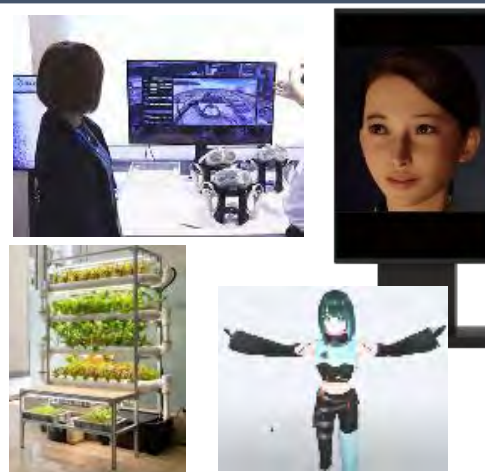
過去4年間 **95**件



5G X LAB OSAKA



プロジェクトの展示から共創へ



社会実装

来場者がアイデアを発想し プログラムに参加

咲洲エリアの街ごと実証フィールドを活用して社会実装へ加速。

※一部事例を抜粋



▲建機・農機の
遠隔操縦システム



▲ミニチュア Twin
Park



▲サイバネティック・
アバターとの共生



▲脳波を使った
認知脳トレーニング



▲スポーツ支援
プラットフォーム



▲ドローンポート



▲トレーラーハウス
×無人デジタル店舗



▲歯科領域の
遠隔手術支援



▲ NFTを活用した
観光サービス



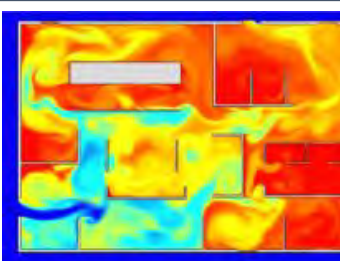
▲警備現場における
遠隔支援



▲船舶の自動航行



▲ソーラー ビーコン
内蔵 点字ブロック



▲換気シミュレーション
サービス



▲ドローン向け風向・
風況可視化サービス



▲協働ロボット搭載
AMR

大学や民間企業の研究開発拠点、商業施設や行政機関などが集積する咲洲エリアで、咲洲プレ万博を契機に 産学官連携による実証フィールドが整備。

咲洲エリアには商業施設**ATC**を中心に、**森ノ宮医療大学**や**ミズノ**社によるオープンイノベーション施設「ミズノENGINE」、**西尾レントオール社**による研究開発拠点などが集積している。

そして、大阪・関西万博の機運醸成プログラムである咲洲プレ万博を地域の企業・大学・団体と2023年度にスタートさせ、街全体で実証実験を受け入れる「街まるごと実証実験」が整備された。
この実証フィールドを万博のレガシーとして 2026年度以降の支援につなげていく。

